決算審査特別委員会

第60号議案・平成20年度白石市各会計歳入歳出決算の認定については、定例会第2日目（9月3日）の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員（議会選出）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長・安藤　佳生、副委員長・制野　敬一）は、9月8日及び9日の2日間にわたる審査の結果、反対及び賛成の討論ののち、表決の結果、賛成多数で認定しました。

審査の中で論議された主な点は次のとおりです。

一般会計

〔質疑〕市は第三次行政改革大綱を推進しているが、平成20年度決算においてどのような成果が上がっているのか伺いたい。

また、平成21年度までの達成目標数値、それに対しどれくらいの達成率なのか伺いたい。

〔答弁〕※答弁を表形式にしました。

平成20年度の目標及び実績

目標額　2億　955万3,000円
実績額　3億9,245万1,000円

平成17年度から平成21年度までの目標及び実績

目標額　8億8,400万円
実績額　12億8,400万円

（平成21年9月8日現在）

〔質疑〕死亡届の提出があったときに市は、哀悼の言葉と線香をお渡ししているが、線香は、宗教的にすべての家庭が必要としない場合もあるのだから、再検討する時期にきていると思うがいかがか。

〔答弁〕現在、課題となっており、近隣の市町の状況を調べたところ、線香をおあげしているところは一つもなかったため、廃止を検討したい。

〔質疑〕指定管理者制度の導入による実績はどのようなものだったのか伺いたい。

〔答弁〕全体的に見ると、その効果はすぐには現れない。

地区公民館の場合には、委託料分が増加するが、これまで配属されていた職員が退職して人件費が削減されるということにはならないことによるものである。

例をあげれば、10人退職しても、5人だけの補充というようにして職員の定員適正化計画を進めてきたが、それが5年なり10年たって初めて大きな人件費の減少になってくるため、単純比較できない側面がある。

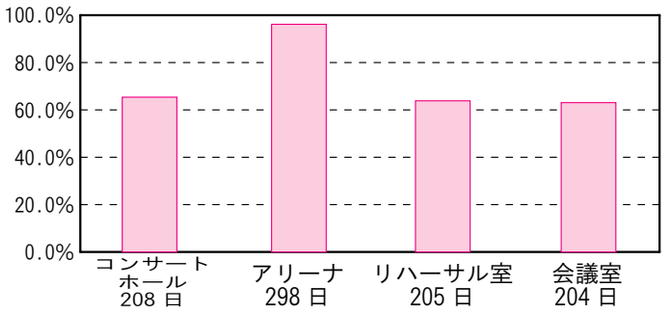
また、指定管理者制度の利点は、財政的な問題だけではなく、住民自身の自治参加意識が変化したところにも非常に大きな効果があったと考えている。

〔質疑〕ホワイトキューブの決算額約1億3千万円に対し、施設使用料やチケット売り上げ収入が約4千500万円になっているが、コンサートホール、アリーナ、リハーサル室や会議室、それぞれの稼働率はどのくらいか伺いたい。

また、チケットの予約購入など、高齢者や来館したくてもできない人に対する配慮はどのようにされているのか伺いたい。

〔答弁〕※答弁の一部を表形式にしました。

ホワイトキューブ稼働日数３１６日のうちの稼働率



高齢者等のチケット購入に関して、市外の方でも電話による受け付けをしており、事前にチケットをとることも行っている。

今後、さらに稼働率の向上に向けて努力してまいりたい。